

# 麻布中-対策法

## 国語 (60点/60分)

### 【1】【2006年出題内容】

麻布の国語は、長文 1 題に設問数 11～14 問という構成です。内容は、物語文・伝記・小説がほとんどで、論説・説明文、随筆文などはほとんど出題されません。2006 年度は、物語文(フィリパ・ピアス「8 つの物語 思い出の子どもたち」約 6000 字)が出題されました。例年通り 1 題構成で、10 問中 8 問は記述(理由の説明・心情把握)となっています。

### 【2】【傾向と対策】

麻布の問題によく出る文章は、いったん落ち込んだ気持ちを前向きな気持ちに転換していく様を描いた物語です。麻布の問題では、こうした主人公の心情変化について「説明」することが求められます。記述について字数制限はありませんが、思いついたことを適当に並べただけでは得点に結びつきません。「説明しなさい」という問いに対してはいろいろな角度から考えて答えることが必要です。

麻布の記述対策には、自分で文章の組み立てを考えて実際に書き、それを自分で読んで論理が通っているかどうかを検証する訓練が有効です。頭の中で考えていることを文章に書き出してみると、客観的に自分の頭の中を見ることができます。頭では論理的だと思っても、書き出してみれば筋が通っていないことがしばしばあります。これは辛い訓練ですが、選択問題の多い問題を何題解いていても麻布には合格することはできません。また、授業でやった問題をやりっ放しにするのもいけません。まとまった文章について、自分自身の頭で考えて要約文を書く訓練が必要です。

そのためには、まず、書くことに慣れましょう。最初のうちは書いたものを先生や親に読んでもらい、論理的かどうかを指摘してもらうのがよいでしょう。書くことに慣れてきたら、次は書き直してみましょう。書き直して筋が通るようになれば、麻布合格まであと一歩です。最終段階では、本文からキーワードを抜き出し、それらを組み合わせて論理的な文章を書いてみましょう。試験時間 60 分はあまりにも短いですから、時間内で解き切るには、自在な表現力・論理力を身につけておくことが必要です。

# 麻布記述 対策法



## 解きっぱなし・読みっぱなしにしない

⇒まずは要約文を書くことに慣れましょう

⇒論理的にまとめられているかどうか先生や親に見てもらいましょう



## 自分が書いた要約文を書き直してみよう



## 本文からキーワードを抜き出し、それらを組み合わせて論理的な文章を書いてみましょう



### 【3】【麻布国語 合格への道程】



合格可能性 80%



合格可能性 50%



合格可能性 10%

| 偏差値<br>(四谷)<br>君の学年 | 51~55 | 56~60 | 61~65 | 66~70 |
|---------------------|-------|-------|-------|-------|
| 5年生の2学期             |       |       |       |       |
| 5年生の3学期             |       |       |       |       |
| 6年生の1学期             |       |       |       |       |
| 6年生の2学期             |       |       |       |       |

麻布の 80%合格圏(4科)は、四谷大塚で偏差値 66 以上、センター模試で偏差値 68 以上、サピックスで偏差値 60 以上、が目安です。

国語が安定していないと麻布の合格は見えてきません。麻布の国語で合格点を取るためには、左の図の実線のように成績が伸びていくことが理想的です。これに対して、6ヶ月以上も点線のように偏差値が伸び悩んだままですと、初めは晴れマークでも、結局は雨マークになってしまいます。国語の対策法をもっと具体的に知りたい人は

⇒ [永田先生\(日能研\)の国語教室](#)

⇒ [国語偏差値20アップ学習法](#)

を見てください。